

ノート

日本沿岸におけるウチムラサキガイの分布（アンケート調査による）

原田和弘*

Distribution of Purplish Washington-clam *Saxidomus purpurata* in Japanese Coastal Waters (by Questionnaire)

Kazuhiro HARADA*

兵庫県播磨灘北部沿岸（加古川市～明石市周辺）および淡路島（南淡町福良周辺）で、おもにホコ突きにより漁獲されていたウチムラサキガイ *Saxidomus purpurata*（1960年代（昭和30年代後半～40年代前半）、兵庫県内で年間最高1,000トン程度漁獲されていた。）が、近年大きく減少しており、ここ数年間は、それを目的とした漁業も行われていないのが現状である。兵庫県播磨灘沿岸の地方では“ホンジョウガイ”や“オオガイ”と呼ばれ、地域特産的な魚種と考えられることから、本種の調査研究を行うことが必要であると思われる。しかし、本県沿岸では現在ウチムラサキガイの漁獲は無く、ウチムラサキガイに関する文献および調査研究資料も、ほとんど見られないことから、研究を進めるに当たって、まず全国的な生息状況と漁獲実態について、アンケートによる調査を実施した。

調査方法

1993～1994年（平成5年度）に、全国の水産試験場（北海道立函館水産試験場～沖縄県水産試験場までの47機関）にウチムラサキガイの生息状況と漁獲に関するアンケート調査を行った。

調査結果

第1表-1～3にウチムラサキガイの生息状況と漁獲に関する調査結果を示した。調査の結果ウチムラサキガイは、北海道南部（北海道北部については未調査）から九州東部の太平洋沿岸、瀬戸内海および日本海沿岸にも数は少ないが分布していると考えられた。

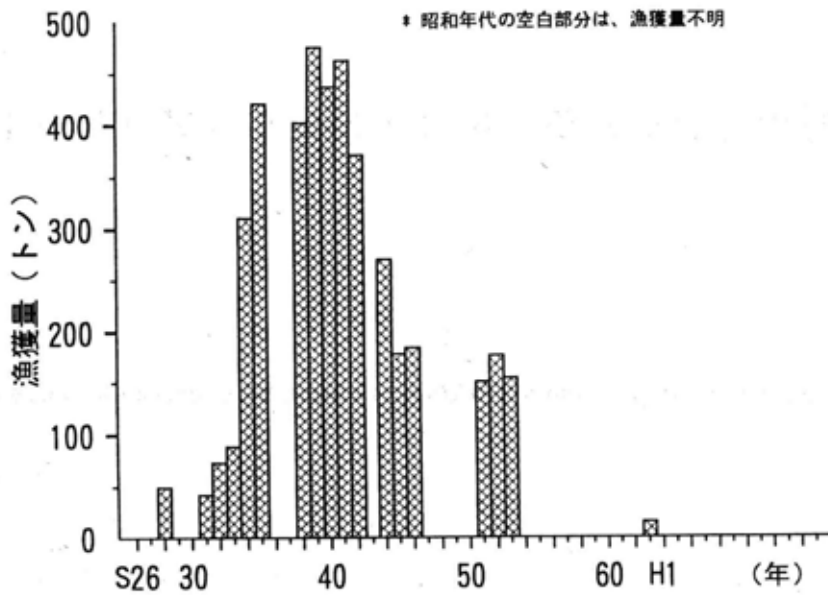
分布海域は、水深20m以浅（おもに10mまで）で、やや泥質がある砂および礫質に多く見られることが分かった。また、最低水温2℃～最高水温28℃、塩分濃度32‰前後の海域に生息していると考えられた。

現在、おもに漁獲しているのは、宮城、山口、福岡および大分県であり、ポンプによる潜水器漁業が中心であった。そのうち山口県の瀬戸内海側では、年間2,000トン以上の漁獲が見られていた。

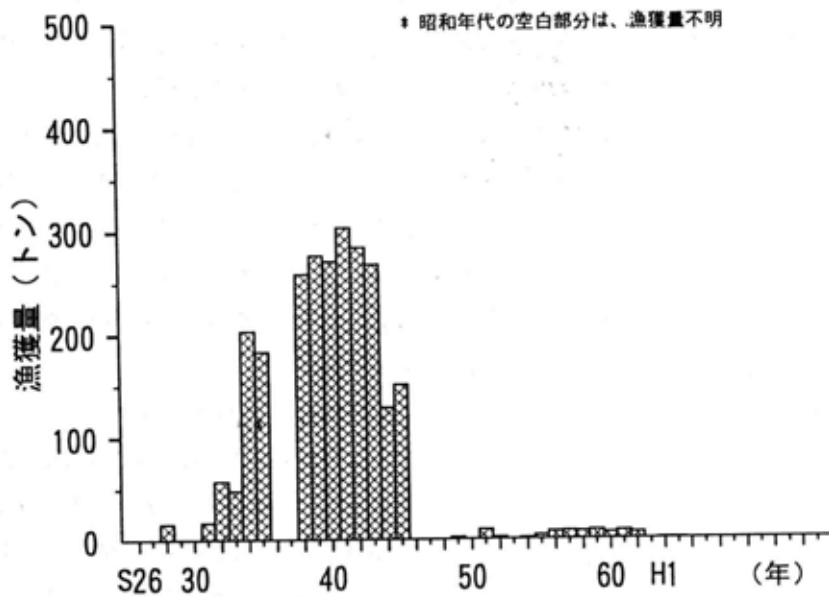
兵庫県で、かつてウチムラサキガイ目的の漁業を行っていた、おもな漁業協同組合の漁獲量を、第1図-1～2に示した。兵庫県では1960年頃から1970年代（昭和35年頃から55年）にかけて年間数百トン単位で漁獲が行われていたが、その後漁獲量は減少傾向にあり、ウチムラサキガイを目的とした漁業は近年行われていない。愛知県でもかつてかなりの漁獲が見られたが、近年は減少し、漁業も行われていない様子である。

以上の結果から、現在日本沿岸で、ウチムラサキガイが多く生息する海域は、山口県の瀬戸内海沿岸に限られてきており、調査研究によりその生態および生息に適した環境条件を究明するとともに、かつて主要産地であっ

* 兵庫県立水産試験場 (Hyogo Prefectural Fisheries Experimental Station, Minami-Futami, Akashi 674)



第1図-1 東二見漁業協同組合のウチムラサキガイ漁獲量



第1図-2 播磨町漁業協同組合のウチムラサキガイ漁獲量

た兵庫県および愛知県における減少要因を探り、資源増殖のための資料を得る必要があると思われた。

なお、ウチムラサキガイの地方名を調査した結果、オオアサリ（宮城、神奈川、愛知、徳島、大分県）、ハシダテガイ、アマハシガイ（京都府）、ホンジョウガイ、オオガイ（兵庫県）、イワハマグリ、オジョウガイ、シジョウガイ（徳島県）、バカガイ（山口、徳島県）など

の呼び方があることが分かった。

謝 辞

本調査を行うにあたり、アンケートにご協力いただいた、試験研究機関の皆様にご心から感謝の意を表します。

第1表-1 ウチムラサキガイの生息状況と漁獲に関する調査結果

調査機関名	生息状況	分布海域	分布海域の環境	漁獲状況	その他
北海道立函館水産試験場	生息している	生息量は少ないが、内湾域に生息しているようである。		漁獲されていない	
青森県水産増殖センター	生息している	陸奥湾内夏泊半島周辺、下北半島尻岸～尻屋	中潮帯～水深2 m (以深については不明) 礫混じりの粗砂、Sal. 32～34%、水温2～25℃	漁獲されていない	
岩手県南部栽培漁業センター	生息している	岩手県各地内湾の砂浜で貝殻が観察されるが、ホッケガイ漁で多少混獲される程度。	表層水温6～21℃	漁獲されていない	
宮城県水産研究開発センター	生息している	宮城県沿岸の岩礁域周辺の石混じりの砂泥域で潮通しの良い所、松島湾桂島など	概ね10m以浅、石混じりの砂泥	漁獲されている 潜水(6～8月)	1993年 6.4トン 地方名：オオアサリ
秋田県水産振興センター	生息している	男鹿半島南部(男鹿市船越、脇本、台島および天王町江川)ただし、貝殻の確認のみ		漁獲されていない	
山形県水産試験場	生息している	湯の田、湯野浜、加茂	潮下帯、砂質、7.5～24.5℃(水温は水試地先水深5 m)	漁獲されていない	
福島県水産試験場	生息している	分布が確認されているのは、相馬市地先の松川浦、いわき市の小名浜地先。その他は不明。	松川浦：1 m以浅、5～24℃、Sal. 10～30%。 小名浜：水深3～4 m、8～23℃、Sal. 32～33%。	漁獲されていない	
茨城県水産試験場	生息している	那珂湊市平磯漁港内で採集したことがあるが、まれに見られる程度	水深1～2 m、砂泥質、水試地先水温8～25℃ Sal. 33～34%。	漁獲されていない	
千葉県水産試験場	不明(過去に生息あり)	現在には不明であるが、十数年前に東京湾内湾の干潟で生息を確認		漁獲されていない	
神奈川県水産試験場	生息している	横須賀市の東京湾鎌倉島周辺、三浦市城ヶ島周辺金田湾	横須賀市：水深2～10 m、城ヶ島：水深1～6 m 金田湾：水深10 m前後 砂泥および礫 水温7～25℃、Sal. 30～32%。	時折漁獲されている (自家消費、浜売り程度)夏に素潜り	地方名：オオアサリ
新潟県水産試験場	生息していない			漁獲されていない	
富山県水産試験場	生息していない			漁獲されていない	
石川県水産試験場	生息している	七尾湾南湾(特に能登島側)その他の海域は不明	水深20 m以浅、やや硬い泥質、水温8～28℃ Sal. 31.0～33.6%(水深1 m 1991年)	漁獲されていない	
福井県水産試験場	生息している	生息していると思われるが、分布、生息調査を行っていないので不明		漁獲されていない	

第1表-2 ウチムラサキガイの生息状況と漁獲に関する調査結果

調査機関名	生息状況	分布海域	分布海域の環境	漁獲状況	その他
静岡県水産試験場浜名湖分場	生息している	湖西市地先の浜名湖	水深2~3m、砂質、水温9.7~27.6℃ Sal. 25.17~34.32% (浜名湖内 1993年)	漁獲されていない	
愛知県水産試験場尾張分場	かつて相当量生息していたが、現在は不明			漁獲されていない 1985年頃までは潜水により相当漁獲されていたが、現在は皆無。地方名：材7判	
三重県水産技術センター	生息していない			漁獲されていない	
京都府立海洋センター	生息している	舞鶴湾、栗田湾、宮津湾に分布していると考えられる。	水深1m、砂泥質	漁獲されていない	地方名：ハジガイ 7700ガイ
大阪府立水産試験場	生息している	大阪湾南部沿岸	水深20m以浅、泥~砂質、水温9~26℃ Sal. 31~33%	まれに漁獲される程度	
和歌山県水産増殖試験場	不明			漁獲されていない	
兵庫県立水産試験場	生息している	主に播磨灘北部沿岸 (加古川~明石地先) と淡路島福良周辺	水深10m以浅、砂礫質* 水温6~28℃、Sal. 31~33%	漁獲されていない 1960~1980年頃は年間数百トン程度漁獲されていたが、その後急減。漁法は主にホコ突き	地方名：ホジガイ
鳥取県水産試験場栽培漁業部	不明			漁獲されていない	
島根県水産試験場	生息していない			漁獲されていない	
岡山県水産試験場	生息している	岡山県沿岸ほぼ全域	潮干帯下部のアサリ生息場所よりやや深いところ 砂泥礫質	漁獲されていない	
広島県水産試験場	生息している			漁獲されていない	
山口県内海水産試験場	生息している	防府市~山陽町地先 (漁獲実施海域)	水深5~10m、砂~砂泥質、水温8~27℃ Sal. 28~33% (山口市地先)	漁獲されている (マア)による潜水器漁業 11~3月)	地方名：バカガイ 1991年 2.776トン
山口県外海水産試験場	生息していない			漁獲されていない	

*林崎漁業協同組合青年部：社団法人日本水産資源保護協会 昭和60年度漁村研究実践活動報告集 ウチムラサキ資源の保護育成調査, 137-156 (1987)

第1表-3 ウチムラサキガイの生息状況と漁獲に関する調査結果

調査機関名	生息状況	分布海域	分布海域の環境	漁獲状況	その他
徳島県水産試験場	生息している	鳴門市：内の海全域、小鳴門海峡の岡崎～北泊 阿南市：橘湾	内の海、小鳴門海峡：水深0～22m 小石混じりの砂 橘湾：水深0～15m 砂～砂泥質 水温9.0～27.0℃ Sal. 29.5～32.7‰	漁獲されていない	地名：材7判 イハマツリ オジノガイ ツツノガイ ハナガイ
香川県水産試験場	生息している			漁獲されていない	
愛媛県水産試験場	生息していない			漁獲されていない	
高知県水産試験場	不明			漁獲されていない	
福岡県水産海洋技術センター (英前海研究所)	生息している	不明ではあるが、アサリ分布水深より深所		漁獲されている (関門海域でアサリ網によるアサリ漁の混獲物として入漁している)	
福岡県水産海洋技術センター (豊前海研究所)	生息している	福岡県豊前海中部～北部沿岸	水深3～5m、粗い砂質域（貝殻が粉砕してできた瀬上も含む）、水温8～28℃ 特に比重の低下がない所（Sal. 31～33‰）	漁獲されていない	
佐賀県玄海水産振興センター	生息していると思われが、未調査			漁獲されていない	
佐賀県有明水産振興センター	生息していない			漁獲されていない	
長崎県水産試験場増養殖研究所	不明			漁獲されていない	
熊本県水産研究センター	生息していない			漁獲されていない	
大分県水産試験場	生息している	佐賀関半島北岸	水深5～10m、砂、礫、岩礁地帯に見られる。水温10～24℃、Sal. 30.0～32.5‰	漁獲されていない	
大分県浅海漁業試験場	生息している	国東半島東岸一帯に分布していると思われるが漁獲は国見町沿岸で行われている。	水深10～12m、砂質、水温7～25℃ Sal. 32～34‰	漁獲されている 潜水器（10月）	地名：オオアサリ 漁獲量：1トン以下
宮崎県水産試験場	生息している	日向灘沿岸の浅海域	水深5～10m、砂泥質の外海水混入域	漁獲されていない	
鹿児島県水産試験場	生息していない			漁獲されていない	
沖縄県水産試験場	生息していない			漁獲されていない	

要 約

日本沿岸におけるウチムラサキガイの生息状況と漁獲実態を把握するため、アンケートによる調査を行った。調査の結果、本種は北海道南部（北海道北部は未調査）から九州東部の太平洋沿岸、瀬戸内海および日本海側にも数は少ないが分布していることが分かった。

分布海域は、水深20m以浅（おもに10mまで）で、やや泥質がある砂および礫質に多く見られることが分かった。また、最低水温2℃～最高水温28℃、塩分濃度32‰前後の海域に生息していると考えられた。

おもに漁獲しているのは、宮城、山口、福岡および大分県であり、ポンプによる潜水器漁業が中心であった。そのうち山口県の瀬戸内海側では、年間2,000トン以上の漁獲が見られていた。